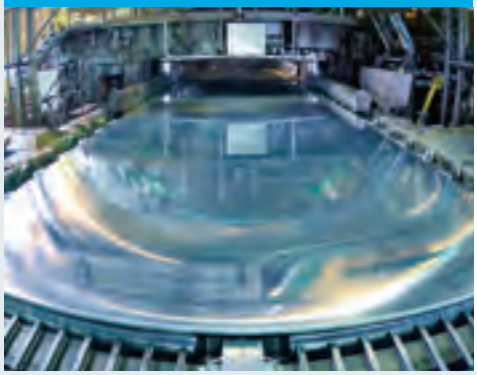
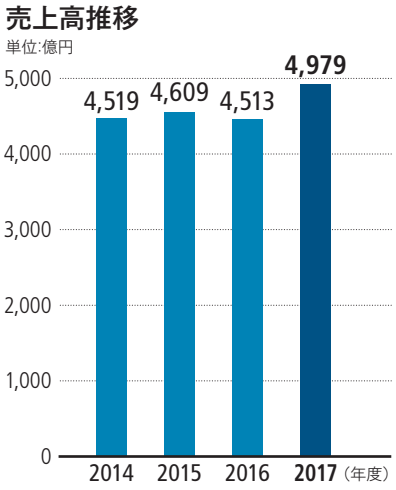
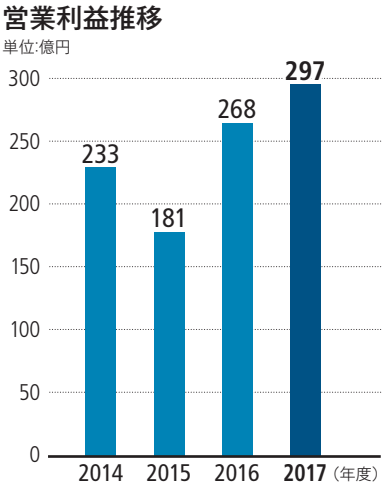
アルミ圧延品事業







注:売上高、営業利益ともにセグメント間調整前のものです。

概況および見通し

2017年度のアルミ圧延品の販売数量は全体で104.9万トン(前年度比2.8万トン増)となり、2年連続で100万トンを突破しました。主力の缶材は、国内ではビール類の販売低調から前年度より需要減少となりました。一方海外では、アジアでの需要が堅調であることからUATHでの販売が大幅に増加、北米のTAAでは自動車向け母材供給が増加したことにより缶材は減少しました。また、箔地・IT材は前年度並み、自動車材はパネル材・熱交換器材ともに堅調、厚板はLNG船向けが減少した反面、液晶・半導体製造装置向けが大幅に伸長しました。その他一般材はフィン材などが増加しました。

このような販売状況のもと、地金価格の上昇も寄与し、2017年度のアルミ圧延品事業の売上高は4,979億円(同10.3%増)となりました。営業利益は棚卸評価関係の好転などもあり、297億円(同10.8%増)となりました。

2018年度の販売数量は、アルミ圧延品全体で111.5万トン(同6.6万トン増)を見込んでいます。特に海外市場向けがUATHを中心に大幅に増加し、年度を通じた販売数量が統合後初めて国内市場向けを上回る見通しです。

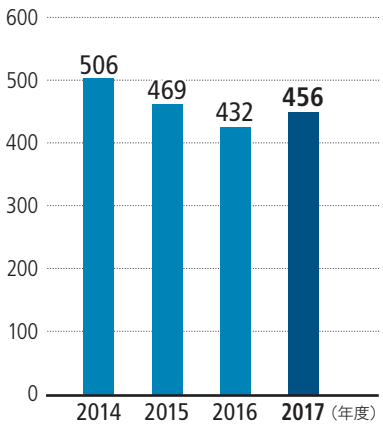
アルミ圧延品の製品構成比と主な販売先

製品用途	2017年度売上数量		主な販売先	主な完成品メーカー
	(単位:千トン)	(構成比)		
缶材	602	57.4%	製缶メーカー	飲料・食品メーカー
箔地	49	4.7%	製箔メーカー	医薬品・食品・電池メーカー
IT材	21	2.0%	電子部品メーカー	IT機器メーカー
自動車材	135	12.9%	自動車・部品メーカー	自動車メーカー
厚板	69	6.6%	金属商社 造船メーカー	液晶・半導体製造装置メーカー 造船メーカー
その他一般材	174	16.6%		
合計	**1,049**	**100%**		
国内市場向け	529	50.4%		
海外市場向け	520	49.6%		

伸銅品事業

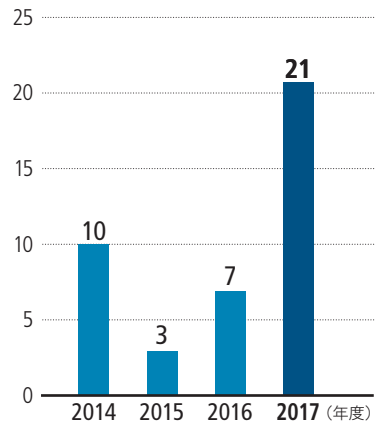
売上高推移

単位:億円



営業利益推移

単位:億円



注：売上高、営業利益ともにセグメント間調整前のものです。

概況および見通し

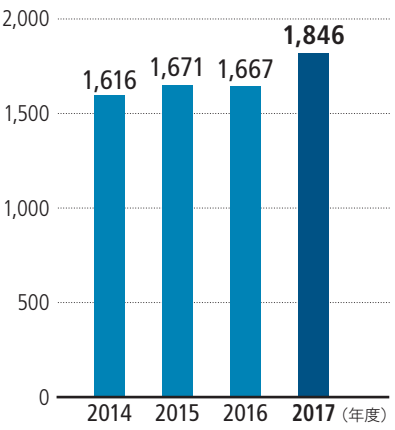
伸銅品事業では、空調用銅管の主要用途であるエアコンの国内出荷台数が総じて堅調に推移したほか、銅地金価格も上昇しました。その結果、2017年度の伸銅品の売上高は456億円（前年度比5.6%増）、営業利益は棚卸評価関係の好転などにより、21億円（同195.3%増）となりました。

2018年度も引き続き、エアコン向け販売数量の増加により2017年度から増収となり売上高550億円、棚卸評価関係の悪化の影響により営業利益は2017年度と横ばいとなる20億円を見込んでいます。

加工品・関連事業

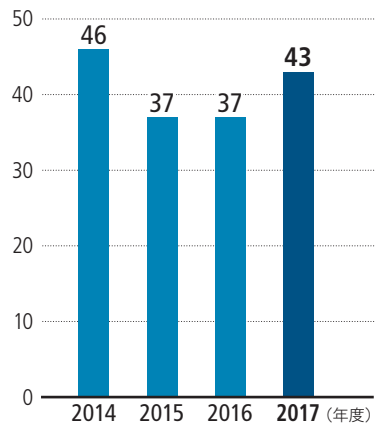
売上高推移

単位:億円



営業利益推移

単位:億円



注：売上高、営業利益ともにセグメント間調整前のものです。

概況および見通し

IT関連などを中心とした需要増加や地金価格の上昇などにより、2017年度の加工品・関連事業の売上高は1,846億円（前年度比10.7%増）、営業利益は43億円（同13.9%増）となりました。

2018年度もIT関連需要が引き続き堅調ですが、2017年度と比べ、棚卸評価関係が悪化することから、売上高は増収となる2,000億円となるものの、営業利益は横ばいとなる40億円を見込んでいます。